

医療法人名南会 第43回定時総会特集号

第43回 定時社員総会のご案内

当法人定款第22条、第25条及び第27条の規定による「医療法人名南会 第43回定時社員総会」を下記のように開催いたしますのでご通知申し上げます。

2008年4月 医療法人名南会 理事長 田淵 哲雄

総会日程及び会場

●日時: 2008年 **5月24日(土)**
午後2時30分～5時45分

午後2時 開場・受付開始
午後2時30分～**記念講演** (詳細は下記をご参照ください)
午後4時15分～**社員総会議事**

●会場: **日本ガイシフォーラム**
レセプションホール (旧サン笠寺)

名古屋市南区東又兵衛町5-1-16
Tel: 052-614-3131
JR東海道本線「笠寺駅」下車、連絡橋で徒歩3分

第43回定時社員総会・記念講演のご案内

今総会も昨年に引き続き、有意義とご好評をいただきました、記念講演を企画しました。

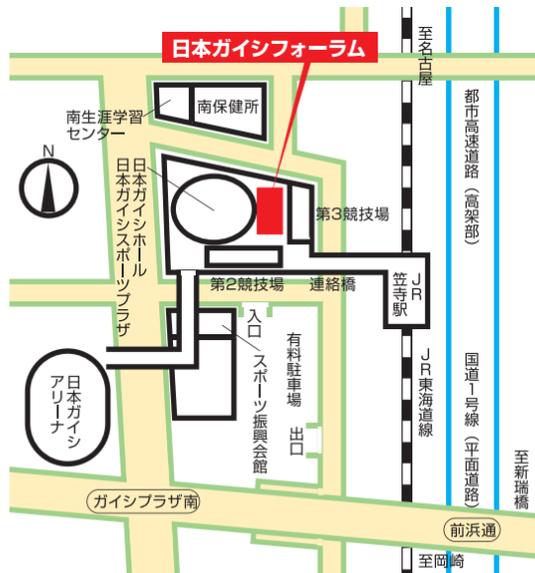
5月24日(土)
午後2時30分～4時

記念講演 堤 未果 氏
(著作家・ジャーナリスト)



●テーマ(仮題)

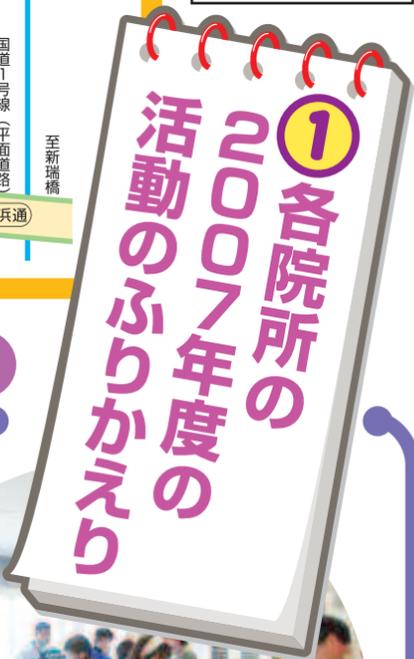
「**貧困大国アメリカから見える日本の未来、報道で伝わらないアメリカの実像**」
東京都生まれ。米国野村證券に勤務中9・11テロに遭遇。現在はニューヨーク東京間を行き来しながら執筆、講演活動を続けている。
CS番組のサブキャスター、解説者などとしても活躍。著書に「報道が教えてくれないアメリカ弱者革命」(鳴海社)。近著に「貧困大国アメリカ」(岩波新書)。
※記念講演の参加は、名南会社員、名南会協同基金にご協力いただいている方、名南・中川健康友の会会員、職員に限らせていただきます。



第394号(部内資料)

発行
医療法人 名南会
名古屋市南区豊田五丁目15番18号
発行責任者
西本 義弘
☎052-692-2388

年間購読料 600円
一部 50円



2007年度諸活動と2008年度活動方針案

① 生活習慣病の取り組みをさらにすすめてきました。



外来での療養支援(運動・食事、服薬など生活上の話) 運動療法支援(理学療法士による体操)について、療養生活をサポートしていく活動として定着させました。また、院外での調理実習を3回行い好評となっています。

名南病院



南区役所での調理実習

② 経鼻内視鏡を導入しました。

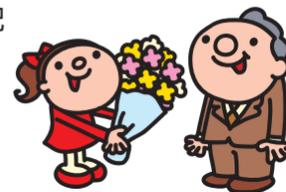
より多くの方に消化器の検査を受けていただくため鼻から挿入する胃カメラを導入しました。昨年比で1.5倍の方に受けていただいています。

③ 医師研修のできる病院としての整備をすすめました。

愛知民医連の研修医を外科で4名(初期研修)、内科で4名(後期研修)受け入れました。管理型臨床研修病院の申請をし、認定を受けました。外科専門医制度修練施設の認定も受けました。

⑤ 日本医療機能評価機構による第三者評価を受けました。

患者サービス・医療の質の向上・管理運営の強化・臨床研修病院としての条件の確保を目的に日本医療機能評価機構の訪問審査を2月に受けました。現在、審査結果を待っている状況です。



④ 入院ベッドの活用の工夫をしました。

在宅復帰に向けてのリハビリ、退院支援をおこなう病床として、4階病棟6床を亜急性期病床として届け出し、10月から稼動を開始しました。



研修医振り返り症例検討会

2008.01.23

2頁につづく

1頁からのつづき

名南ふれあい病院



認知症家族交流会

2007年度の名南ふれあい病院は、家田一文医師の着任により認知症対応の幅が広がりました。8月からは一般外来に加え「もの忘れ外来」も家田医師担当となっています。第三者機関の評価では財団法人日本医療機能評価機構による認定を受け、「老人の専門医療を考える会」の老人病院機能評価でも全国ベスト10にランク入りする評価をいただき、11月1日には同会の見学会を開催しました。また、全国療養病床大会（神戸）では2演題を発表し大会成功に貢献しました。また、2階回復期リハビリテーション病棟ではプロジェクトチームを発足させ、選ばれる病院を目指し分析検討が行われました。①リハ機能の充実 ②患者および紹介病院からの利用しやすさの追求 ③新たな連携パスの導入や医師をはじめとするスタッフの交流・研修、の3課題が提起されました。在宅復帰率を向上させ、選ばれる病院を目指し、これらの課題に取り組んでいます。

日本医療機能評価機構・認定証



名南介護老人保健施設かたらいの里

2007年度の方針としてケアの質向上、職場環境の改善、経営の安定化を掲げ取り組んできました。ケアの質向上に関しては生活リハビリの考えを学び日常のケアに取り入れるよう努力してきました。また老人保健施設での看取りについてもあり方を職員で話し合い、実践してきました。職員の資質向上を目的に介護福祉士等の実習施設として学生の研修の受け入れ、中学生のサマーボランティアの受け入れを積極的に行い社会的な貢献を果たしてきました。職場環境の改善に関しては他施設の長所を見学等で学び、当施設にも取り入れることができないかを検討しています。また他職種協働での計画の策定とケアの実践が確立できるようにも取り組んでいます。経営の安定化に関しては入所は平均稼働率、通所は一日利用者数の管理を強化し収入の確保に努めてきました。介護保険における老人保健施設に与えられた役割、また、地域からの要求を果たすためにどのような取り組みをしていけばよいのか常に検討をしながら施設の運営をこれからもしていきたいと思えます。

2007年度の方針としてケアの質向上、職場環境の改善、経営の安定化を掲げ取り組んできました。ケアの質向上に関しては生活リハビリの考えを学び日常のケアに取り入れるよう努力してきました。また老人保健施設での看取りについてもあり方を職員で話し合い、実践してきました。職員の資質向上を目的に介護福祉士等の実習施設として学生の研修の受け入れ、中学生のサマーボランティアの受け入れを積極的に行い社会的な貢献を果たしてきました。職場環境の改善に関しては他施設の長所を見学等で学び、当施設にも取り入れることができないかを検討しています。また他職種協働での計画の策定とケアの実践が確立できるようにも取り組んでいます。経営の安定化に関しては入所は平均稼働率、通所は一日利用者数の管理を強化し収入の確保に努めてきました。介護保険における老人保健施設に与えられた役割、また、地域からの要求を果たすためにどのような取り組みをしていけばよいのか常に検討をしながら施設の運営をこれからもしていきたいと思えます。

名南診療所

名南診療所では、18年度より在宅支援診療所として徐々に訪問診療件数を増やしてきました。今では、名南会の事業所だけでなく、様々な院所・事業所より患者さまのご紹介をいただけるまでになりました。また、通所リハビリの利用者さまも昨年度より増えました。居宅介護支援事業所は、地域の方とケアマネージャーが一緒になって、困難を抱える利用者さまのために奔走しています。診療所としての一大イベントの第5回名南診療所地域健康まつりは、友の会とともに準備、運営し、地域のまつりとして定着してきています。秋の共同組織月間では、友の会と全職員が一緒になって地域訪問行動を行いました。高期高齢者医療制度反対署名のお願いや、名南会への資金協力をお願いをし、多くの方にご協力していただきました。



名南診まつり



名南診訪問行動

中川診療所

この1年間、職員一丸となって、地域の皆様によりよい医療と介護を提供できるよう努力してきました。この1年間、さまざまな取り組みを行いました。なかでも共同組織（中川健康友の会）の取り組みが前進しました。

- 8月には友の会と職員が共同で平和盆踊り大会に出店し、おでんと焼きそばを販売、大盛況でした。
- そもそも友の会とは何か？皆で意見を出し合い、考え、加入案内も作り直し、診療所窓口での友の会員増やしを意識的に追求しました。また、継続的な地域訪問行動を計画し、友の会役員と職員が共同で行動しました。
- 3月には中川地域懇談会を開催し、65名の参加で成功を収めました。山口所長の紙芝居や職員によるマジックショーなど参加者に楽しんでもらえる企画となるよう職員皆で知恵と力を出し合いました。
- 4月には4年ぶりに行楽と友の会総会を兼ねたバスツアーを行いました。

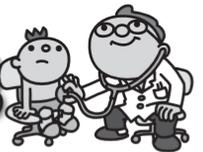
今後に向けた取り組み

築25年が経ち、老朽化した中川診のリニューアル（改築）に向けた取り組みを進めます。介護事業アンケートでは100名の患者・利用者様から貴重な意見を集めることができました。今後あらゆる機会を活かし、リニューアルに向けた意見・アイデアを集め、具体化を進めていきます。友の会員の拡大をさらに推し進め、友の会の抜本的な強化と自主的な組織としての活動スタイルの転換を目指します。



中川地域懇談会にて山口所長の紙芝居

在宅きずな



- ①介護保険改定後、利用や運営が厳しい中、利用者さまの人権や生活を重視しました。
- ②3事業所（訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所）の体制を維持し、より質の高いサービスをめざし、研修学習を行いました。
- ③医療、施設、地域との連携を重視し、在宅支援に努めました。

② 法人創立40周年記念事業を盛大に行いました。

名南会は伊勢湾台風（1959年）被害の復旧ボランティア活動、地域の方々が「安心して利用できる自分たちの病院づくり」の願いの中から生まれ、40周年を迎えました。

40周年記念祝賀会（9月9日、ホテルグランコート名古屋にて）



社員、協同基金会員、健康友の会の皆様のご協力により、盛大に行うことができました。名古屋市医師会長様をはじめ50名ほどの来賓の方々をお招きし、全体の参加者は370名でした。



40周年祝賀会

40周年記念、地域懇談会を各地で開催しました。

瑞穂地域懇談会



中川地域懇談会

名南会の40年をふりかえり、今後の名南会の発展について懇談、共同組織の方々と楽しく交流しました。すべての地域懇談会で、医師による健康づくりの話、そして健康体操、名南会の紹介ビデオの上映などを行いました。1月26日の瑞穂地域懇談会から4月現在まで、名古屋市内7ヶ所合計で350名ほどの方々に参加していただきました。

③ 2007年度さまざまな取り組みを共同組織とともにすすめました。

みんなで楽しく健康づくり

●3人以上集まれば、地域で「友の会班会」ができます。班会では、血圧や体脂肪測定、検尿などの健康チェックを毎回行い、また病気の予防や治療について医師や看護師、その他のスタッフもお伺いし、アドバイスをさせていただきます。



病院地域合同班での「応急処置」班会



五条北班、研修医による「花粉症の予防と対策学習会」

●名南わいわい広場やアピタ南店様などで「まちかど健康チェック」に取り組みました。



名南ふれあい病院職員によるアピタ前での健康チェック



名南わいわい広場前でも、名南病院職員により健康チェック



名南病院外来での、「なんでも相談」

平和、暮らしを守るとりくみ ~みんなで学んでみんなで行動~



8月原水禁世界大会長崎に参加した名南会青年職員



150名が参加した国民平和大行進・南区コース

●介護、医療、福祉を守る運動では、「療養病床の削減・廃止反対」「後期高齢者医療制度中止・撤回」「医師・看護師を増やす」署名などに取り組みました。後期高齢者医療制度については、友の会班会やさまざまな企画の中で学習を行いました。

●平和を守る運動では、「憲法9条を守る署名」に取り組んだり、6月平和行進、8月原水禁世界大会などに取り組みました。

4月10日、即時中止・撤回を求める「後期高齢者医療制度」学習会



名古屋・栄でのナースウェブの行動

●第9回全日本民医連共同組織活動交流集会(長野)に職員4名、友の会7名で参加しました。

地域の願い「たまり場」が今年度名南病院地域にできました。趣味や特技を生かした、生きがいの仲間づくりがひろがる。



連鶴講座

●7月に、「名南わいわい広場」を南区道德通に開設。友の会班会や「ちぎり絵・連鶴・囲碁」などの教室。友の会と生活と健康を守る会共同の「相談会」。ふれあい合唱団、道德・豊田9条の会の例会など、地域交流センター、地域運動の拠点として利用がひろがっています。



囲碁・将棋教室



なんでも相談会



共同組織交流集会での名南会参加者(尾張健友会参加者とともに)



楽しい全体企画、地域でのとりくみは、職員、共同組織相互の親睦がはかられ、地域の中間の輪がひろがり、まちづくりに。

秋の月間「10月、11月元気・仲間・生きがい・支えあい月間」では、運動がかってなく前進

●月間では、地域訪問行動、外来行動などにとりくみ、731人の方と対話、363名の友の会会員増やし、出資・協同基金など名南会への資金協力も1,000万円を超えました。



中川診療所地域、月間での訪問行動の様子

●春の行楽には69名、秋の行楽には過去最高の89名、130名が参加した「大須新年初笑いツアー」などは友の会の恒例行事として定着してきました。

5月28日春の行楽「浜名湖ガーデンパークと八潮の湯」



11月17日秋のバスハイク「長浜散策と池田温泉」

第4回ふれあい健康フェスタは200人の参加



道德公園で開かれる、「いきいきフェスティバル」には毎回参加

第30回道徳平和盆踊り大会



名南会(職員)「糖尿病療養指導研究会」も出店

盆踊り会場での健康チェックコーナー

1月10日大須観音初詣、大須演芸場初笑い

瑞穂夏まつりにも、友の会として参加

診療案内

先月号(第393号)掲載の「名南会診療案内」におきまして、名南診療所の診療表に誤りがありました。ご迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。以下、正しい診療案内を再度掲載させていただきます。 2008年4月より

名南診療所

TEL 691-2497(代)
FAX 692-2667

診療科目 内科・小児科・消化器科・循環器科・呼吸器科
名南診デイケア(月)(水)(木)(金) 9:30~15:50

曜日	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○・往診	○	○・往診(第2・4)	○
午後	往診	往診	往診	往診		
夜	○				○	

医療法人名南会2008年度方針 (案)

(情勢とわれわれの基本的立場)

今、医療・介護の分野では、医療崩壊・介護崩壊とも言われる深刻な事態に直面しています。自民党・公明党政府による医療費抑制政策によって、医師数の削減、受診抑制を目的にした窓口負担増による受診抑制策、診療報酬の引き下げ、介護保険でも大幅な負担増とサービス利用の制限、事業者規制の強化などが行われてきました。さらに、医療構造改革というさらなる医療費抑制政策を策定し、2008年から本格的実施となりました。

この4月からは、国民の「中止・撤回」を求める多くの声を無視し、後期高齢者医療制度を強引にスタートさせました。後期高齢者医療制度は、75歳以上の高齢者1,300万人を健保や国保から追い出し、保険料は年金から天引き、収入のない人からも保険料を徴収、払えなければ保険証を取り上げる、さらに年齢で区切って差別医療を行うという、世界に類のない過酷で強権的な制度です。国民無視の実施強行は、新たな怒りを国民の中に巻き起こしています。中日新聞の世論調査(4月21日)によると、後期高齢者医療制度には78%が「見直す必要がある」と回答しています。朝日新聞調査でも、71%が「評価しない」と回答しています。

08年診療報酬改定は、4回連続(8年間)の0.82%のマイナス改定で、医療構造改革路線を推進するための改定になっています。今回の改定は、病院(200床以下)の再診料や「10対1入院基本料」の引き上げなどが行われていますが、多くの医療機関、特に診療所や中小病院において本体部分でマイナス改定となり、地域医療を担っている第一線の医療機関の医療と経営に重大な打撃を与え、今日の地域医療や医療崩壊の危機をさらに深刻化させるものとなっています。

また同時に、2025年に向けて保険者に対して健診を義務化し、将来の糖尿病をはじめとした生活習慣病による医療費の支出を削減するために「特定健診・特定保健指導」を実施します。これは、今までの住民健診をメタボリックシンドローム(メタボ)健診に矮小化し、メタボ以外の大切な健

診を切り下げる点で、憲法で保障されている住民の公衆衛生を後退させるものです。また、健診医療機関への健診料金を大幅に引き下げるもので、民医連の事業所にとっては後期高齢者医療制度とあわせて、事業や経営にも少なくない影響があります。

事態を深刻にしているのは、これらの医療構造改革が、日本の全世帯の2割以上が生活保護基準以下の絶対的貧困層となっているような国民生活のきびしさの中で推進されていることです。日本医療政策機構が2007年度に「所得と医療機関の受診率」を調査したところ、具合が悪くても医療機関に受診しなかった人の割合は、年収300万円未満の層では40%以上となり、84%が「病気になった時、医療費が支払えるか心配」と応えています。全国商工団体連合会共済会の2006年度会員の死亡調査では、初診から死亡までの期間「24時間以内」が16%、「2日から1月未満」が20%という、手遅れになってから初めて受診する中小業者の深刻な実態が出ています。

全日本民医連第38回定期総会では、「憲法を生かし、まっすぐな人権意識を持ち、連帯と共同を強め、地域の医療と福祉を充実させよう」と決意しました。この間、「看護師増やせ」の署名は民医連独自署名が100万筆を超え、国会が全会一致で可決する画期的な取り組みを行いました。ドクターウエーブでも全国で幅広い取り組みがすすみ、「医師・看護師増やせ」の世論が広がっています。「たかえれば情勢は切り開くことができる」ことを確認し合い、様々な運動が「民医連の出番」を大きく広げ、質的にも量的にも新たな段階に高めてきています。「室料差額なし」をシンボルにした無差別・平等の医療が、民医連の評価となり、いま主張と役割が新たな注目を集めています。医療法人名南会は、これまで以上に民医連にしっかりと結集し、医療活動の前進をはかり、地域の医療と福祉を充実させるたたかいを強めていきます。

(2008年度の重点課題方針)

全日本民医連第38回総会方針に団結し、40年の実践に確信を持ち、「差額ベッド」のない、混合診療を許さない民医連の事業所として、人権にもとづく安全・安心・信頼の医療と介護を実践し、安心して住み続けられるまちづくりに貢献します。次回の大きな医療・介護制度改正が予定されている2012年をめざした中期計画を確立していきます。

① 地域になくってはならない名南病院の機能・役割を高める

糖尿病をはじめ生活習慣病の療養支援、消化器・乳ガンなどの早期発見から高度医療機関と連携した治療、高齢者の急性期対応、2次救急などの機能をさらに向上させていきます。「断らない外来づくり」をめざした外来サービスの向上、夜間救急の早期再開をめざします。また、病院機能評価受審の経験を生かし、管理運営の見直しを行います。

③ 法人内及び地域の事業所との連携をシステム的にも整備を行い強化する

医療法人名南会の特徴と優位性を発揮するためにも、法人内及び地域の事業所との連携・ネットワークの質を高めていくことが重要です。現状の医療制度では、連携なくして地域住民の期待に応えることができません。自事業所の特徴を統計的にも打ち出し、法人全体の有する機能を効果的に発揮していきます。

② 医師・看護師をはじめ職員の確保と育成をすすめる

地域の期待に応えるためにも、中長期的な展望からも、医師・看護師をはじめ職員の確保と育成が不可欠であり、2008年度方針の最重点のテーマです。一人一人の職員を大切に、働き続けられる魅力ある職場づくり、様々な資格取得を含めた育ちあう研修制度の充実などを基本としつつ、求人対策を強化していきます。

④ 平和・憲法を守り生かす活動を強め、健康友の会の強化をはかる

40周年記念の地域懇談会は、医師を先頭に大きな成功をおさめ、今後の前進への確信となっています。連帯し助け合う組織として、平和・憲法を守りまちづくりをすすめる医療・福祉住民運動として、事業所を守り発展させる共同組織として健康友の会を拡大・強化していきます。また、無料・低額診療事業の認可に挑戦していきます。

⑤ 医事会計の整備、診療報酬制度への対応を強め経営改善をはかる

2008年度は診療報酬の改定や後期高齢者医療制度の創設などがあり、経営を守り、患者の人権を守る視点がいっそう求められています。中期計画をもち、医療活動方針とあわせて検討と情報の把握に努めていきます。また、医療活動の成果を正確に経営結果に反映することは基礎的課題であり、各院所における医事会計の整備をはかります。